

マツタケの種類と分布

1. はじめに

秋ともなるときのこのことが必ずといってよいほど話題に上ります。中でもマツタケは日本人の郷愁とも結びついて関心が高いものです。

しかし、日本のマツタケ生産量は近年激減して高値のため手頃な外国産のマツタケでお茶をにこす場合も少なくないと思いますが、香りがなかったり、多少色や形が変わっていて日本のものと同種であるか否か疑問を持つ人も多いようです。

そこで、日本に輸入されているマツタケの種類や近縁種について概略をとりまとめてみました。

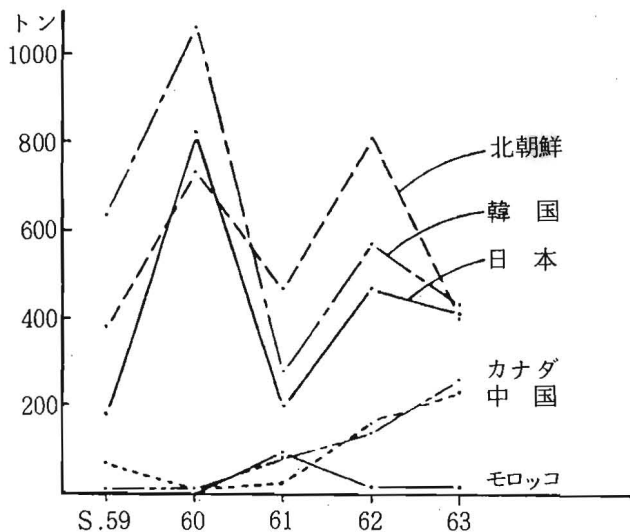


図1 マツタケ、日本の生産量と国別輸入量

2. 国内生産量をオーバーした輸入量

マツタケが輸入され始めたのは昭和30年代の後半頃からのようですが、国内産が減少するにつれて輸入量は増加し、最近では図1のとおり輸入量が国内産を大きく上まわっています。

昭和63年の数値をみると国内産406トンに対し輸入量は1,430トンとなっており、輸入先も韓国、北朝鮮、中国、カナダ、アメリカ、モロッコ等と世界中に広がっています。

3. マツタケの種類と分布

日本と外国のマツタケを生態的、形態的に比較したものが、表1、図2です。

輸入量の多い朝鮮半島や中国大陸のマツタケは分類上は日本のものと同種となっています。そして、この地域は緯度が高いため本場関西地方よりも早く発生し、いわゆるはしりの時期から店頭に並びます。しかし、食べてみると香りがうすく日本の種類と違うように思い勝ちですが、これは輸送に時間がかかっているためで採り立ては高い香りがあります。ちなみにマツタケの香りは1日ごとに半減するとも言われています。

なお、日本のマツタケでも寄生植物によって違いが認められており、アカマツ、クロマツ、ツガから発生するものを標準とするとエゾマツ、アカ

表1 マツタケの種類と分布

種類	分布	寄生植物
マツタケ Tricholoma matsutake	日本 朝鮮半島, 中国大陸	エゾマツ, アカエゾマツ, コメツガ, ツガ, ハイマツ, アカマツ, クロマツ アカマツ
タイワンマツタケ T. m. var. formosa	台湾	ニイタカアカマツ
オウシュウマツタケ T. caligatam	アルジェリア, モロッコ スペイン, フランス アルプス, 東ヨーロッパ	セドルス マツ属 針葉樹, トウヒ?
アメリカマツタケ T. ponderosum	北米西部 北米西海岸 北米中西部, 東部 ロッキー, カナダ	ダグラスファー, ヘムロック コントルタマツ バンクシャーマツ トウヒ属

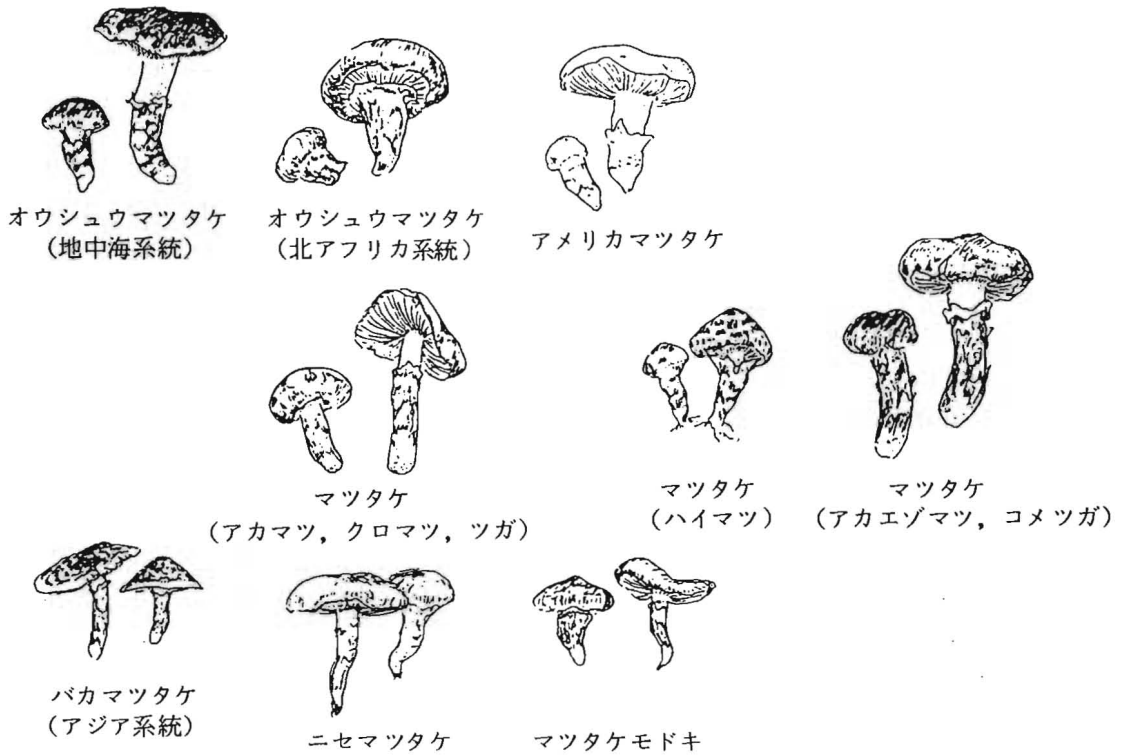


図2 マツタケとその近縁種 (原図 小川)

エゾマツ、コメツガからのものは形が大きく、鱗片の色が濃い状態です。ハイマツからのものは、傘に比べて柄が短く下部が細くなります。

次に台湾の山岳地帯にも発生しますが、これは台湾マツタケとしてマツタケの変種に位置付けられています。

地中海、北アフリカ地域でのマツタケも知られていますが、これはオウシュウマツタケで日本のものとは種が異なります。そして、味に苦味や酸味を有していたり、つばとひだとの間の白色部が長くなる点などで大きな差があります。

カナダ、アメリカからも輸入されていますが、これはアメリカマツタケでやはり種が異なります。この種は全体的に白色がつよく、肉質はやわらかで多少水っぽいのですが、味や香りは日本のものと変わりありません。

4. 日本におけるマツタケの近縁種

以上の他に種類は明らかに異なりますが、形や香りがマツタケに似るといふことからかなり混同されているきのこの仲間があります。

つまり、マツタケ臭を有する種はマツタケと、バカマツタケですが、ニセマツタケ、マツタケモドキは形が似ても香りはありません。また、マツ林から発生する種はマツタケとマツタケモドキで他の2種は広葉樹から発生しますが、これらの関係を整理したものが表2です。

なお、サマツという方言名がありますが、これは夏に発生したマツタケを指したり、或いはバカマツタケ、ニセマツタケ、マツタケモドキ、マツオオジなどを指す場合もあり注意が必要です。

(特産部 小出)

表2 日本におけるマツタケとその近縁種

種類	寄生植物	マツタケ臭	マツタケとの比較
マツタケ	マツ属, ツガ属, トウヒ属	あり	—
バカマツタケ	ミズナラ, コナラ	あり	マツタケより小形
ニセマツタケ	コナラ, シイ	なし	大きさ, 形は似るが黄褐色で鱗皮少ない
マツタケモドキ	アカマツ, クロマツ, ツガ	なし	煮ると黒変する